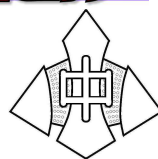


手をたずさえて

“小原田PRIDE”～自信と誇り

- 心身ともに健康で明朗な生徒
- 自主的に学習する生徒
- 責任を重んじ協調性のある生徒



令和4年2月10日(木)発行
【発行責任者】郡山市立小原田中学校長 熊坂 洋

『天使のパン』に想うこと … 『一日一生』

2月も中盤となり、令和3年度もいよいよ大詰めです。3年生の多くは、県立高校前期選抜に向けてラストスパート体制に入り、1・2年生も進級に向けての準備期間を迎えています。この号では、この時期にふさわしい『天使のパン』という話を掲載します。

元競輪選手の多以良泉己（たいら／みずき）さんが焼き上げるパンが『天使のパン』と呼ばれ、数年越しで待つ全国の人のもとへ届けられています。注文してから手元に届くまで、なんと“17年待ち”とされています。なぜ、それほどまで待ち時間が長いのでしょうか？

実は多以良さんは有望な競輪選手でしたが、レース中に大きな事故に遭い、後遺症を残しながら手作りのパンを焼いているのです。事故の影響で左脚に麻痺が残り、さらに「高次脳機能障がい」になりました。「高次脳機能障がい」とは、認知機能の障がい、記憶があいまいになったり、集中力が続かなくなったりする症状が見られる障がいです。そのため、ひとつのパンをつくるのにかかる時間は3時間ほどで、一日かけても5、6個しか作れない状態なのです。

「人を押しのけて勝ちにいくというタイプの人ではなかったのです。勝負の世界では珍しい人でした。だから、この人、優しすぎて大丈夫かな、って」

奥さんの総子（ふさこ）さんの言葉です。

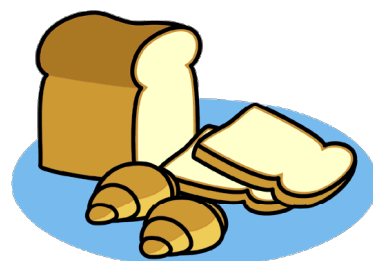
総子さんは、多以良さんに対し、競輪選手としての復帰をめざし、事故後、意識が戻ってから間もなく早急にリハビリの開始を勧めたそうです。多以良さんの回復はめざましく、感覚を失っていた手足が動き、一ヶ月後には自力で歩けるようになりました。

しかし、脳が深刻なダメージを負っているという過酷な現実を知ったのは、退院した後のことでした。選手としての復帰が絶望的であることを医師から告げられ、普段は物静かな多以良さんが自暴自棄にかんしゃくを起こすことが多くなったそうです。

そのとき総子さんの出した答えはこうでした。

「どんな時も明るい言葉をかけよう。毎日を楽しもう。」

そして、自宅を拠点にできるリハビリの中で、粘土細工にヒントを得たのがパン作りでした。



「パンは粘土とは違って、僕が作ったものを人が喜んで食べてくれます。それが嬉しくて楽しくリハビリができました。パンのおかげでたくさんの人とつながることもできました。」と多以良さんは言います。

修業中に作ったパンは友人や近隣の人々からの注文が絶え間なく入り、マスコミでも取り上げられると、家庭用オーブンで一つずつ丁寧に焼き上げられる『天使のパン』に予約は殺到し、17年待ちのパンとなりました。

多以良さんは、こう言います。

「どんな人が食べるのか想像しながら、その人のことを思って作ります。」

多以良さんは、オーダーした人の情報をしっかりと把握しながら作業に入ります。

「一カ所でも思うようにいかないと、初めから作り直すのです。食事もしないでこもりきり。鶴の恩返しみたい」と総子さんは言います。そして、多以良さんがこうつけ加えます。

「誰のために作っているのかわからないパンなんて僕にはつくれない。相手の顔が見えないから、一生懸命（パンを食べる人を）想像しながら、僕はその人のためにパンを作るんです。」

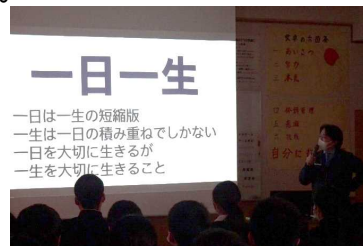
待ちわびた『天使のパン』が届いたとき、その人には過ぎた時間が蘇り、現在の自分をふと見つめることができるのかもしれません。『天使のパン』の味は、多以良さんによって吹き込まれた命の味なのだと思います。

この『天使のパン』の多以良さんの話から考えさせられたことがあります。それは、大切なものを失うということは、別の大切なものに出会う機会が与えられるということです。空に浮かんた雲が、流れにまかせて形を変えていくように、逆らえない力を素直に受け止めることができれば、認めがたい困難さえも乗り越えていけるのかもしれないということです。

そして、一つのパンを焼き上げるのに、パンを食べてくれる人のことを思い、ゆうに3時間はかけ、多くても1日に5、6個しか焼かない。多以良さんにとっては、精一杯のパン作りがその日一日に凝縮されており、密度の濃い一日一日を大事に過ごしていることが伝わってきました。そんな姿からこんな言葉を思い出しました。

それは、『一日一生』という言葉です。

この前、3年生には話した言葉です。「一日が一生、と思って生きる」ということです。一日は一生の短縮版であり、一日を大切に生きることが一生を大切に生きることになります。大勝負の時を間近に控える今、1年間の締めくくりをしなければならない今、『一日一生』の想いで、多以良さんのように密度の濃い一日一日を送っていくことが必要だと考えます。



県立前期選抜に挑む3年生！ 2/14には最終倍率確定！

県立高校前期選抜の出願が終わり、志願状況が発表されました。2月9日（水）から出願先変更が行われ、2月14日（月）には最終倍率が確定します。そして、県立高校前期選抜まであと20日です。3年生の多くの生徒達が3月3日（木）からの前期選抜に挑みます。いよいよ「勝負の時」です。

『万全を期す』という言葉があります。「ぬかりのないように準備すること」という意味です。「もう20日しかない」と考えるのか、「まだ20日もある」と考えるのか…考え方はいろいろあると思いますが、どうせなら「まだ20日もある」というポジティブ（前向き）な考えに立って、この20日間に『万全を期す』ことです。

昨年度も行いましたが、2月7日（月）には時間をもらって、社会科の学習を例に『入試直前対策』の話をしました。世界のじゃんけん、古代文字の解読などで頭を柔らかくした後に、入試の出題傾向から次のような直前の学習方法について説明をしました。

①直前に見ていた用語が出題されるなど、社会や理科は直前の学習が点数に結び付く場合がよくある。だからといって、国・数・英を手を抜くということではない。②直前の学習としては、今までやってきた問題集やテキスト等を再度確認する。今までの実力テストや定期テストをやり直すことも効果的である。③社会科教科書の章のまとめ“学習をふりかえって”のページを学習の整理に活用するなど。

入試に挑む3年生は、早起きの習慣など生活のリズムを整え、感染症対策を含めた体調管理にも十分注意してください。そして、最後まで決してあきらめないことです。これからの一日一日を大事に刻んでいこう！そして、1・2年生も今年度最後の定期テスト【2月16日】に向けての準備に全力で取り組んでください。



入試対策“特別授業”

増田太郎さん 情報!!

増田太郎さんの最新情報です。

NHK『おかあさんといっしょ』で昨年放送され大好評だった『おたすけ！ およよマン』に続き、太郎さんが作編曲と演奏を手がけた楽曲『まほうのラララ♪』が、2月7日からNHK『おかあさんといっしょ』2月の歌として放送開始となりました。この曲は太郎さんのパートナーのありかさんとともに作詞を担当しています。その名も「ありたろう」。

「お子さんだけでなく、あらゆる世代のみなさんに楽しんでいただきたい」…そんな想いで生み出された楽曲です。「ラララ♪」のコーラスがとても印象に残る曲です。是非、聴いてみてください。

